

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	北部リハビリテーションセンター 北部日中活動センター	評価対象年度	令和5年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 佐川 道夫 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	就労移行:契約者6名(定員10名)、就労継続支援B型:契約者23名(定員30名) 生活訓練:契約者9名(定員6名)、生活介護:契約者19名(定員10名)				
収支実績	収入		支出		収支差額
	福祉事業活動	116,752千円	福祉事業活動	116,752千円	0千円
	指定管理委託料	15,359千円	人件費	77,717千円	
	給付費	58,040千円	事務費	19,218千円	
	川崎市単独扶助	8,183千円	事業費	12,621千円	
	利用料(利用者負担金)	2,988千円	事務局経費	3,690千円	
	就労支援事業収入	2,571千円	就労支援事業支	2,717千円	
	拠点区分間繰入金	26,907千円	その他	790千円	
	その他	2,703千円			
	合計	116,752千円	合計	116,752千円	
※端数処理のため合計が一致しないことがあります。					
サービス向上の取組	・「手ごたえのある活動を通じて自分らしい生活をつくる」ために、自己理解のための3本柱(個別プログラム、集団プログラム、個別相談)で支援を展開した。 ・市内3個所の日中活動センターの役割や機能について明らかにし、標準化・平準化を進めるために総合リハビリテーション推進センターが進めている「日中活動センターガイドライン」の作成に、南部日中活動センター、中部日中活動センターとともに協力した。				

3. 評価 (評価段階:5→1,標準:3,加点割合:5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由) ・日中活動センターでは、多機能型(生活介護、生活訓練、就労継続支援B型、就労移行支援)の事業を展開し、3障害(身体、知的、精神)や高次脳機能障害の方を受け入れ、利用者本位のサービス提供に努めるとともに、多機能型の特徴を活かし、利用者のニーズに沿った活動を柔軟に提供できるよう事業運営を行った。 ・生活介護事業では胃ろうの利用者1名へのサービスをより安定して提供するため、特定行為業務の実施ができる介護福祉士1名を維持した。 ・就労移行支援事業では就労アドバイザーの協力も得ながら復職支援に取り組み、2名の復職に繋げた。また、生活訓練事業では高次脳機能障害の方の支援に力を入れ、在宅支援室の各専門職の評価結果も取り入れて個別支援計画を作成し、支援を実践した。 ・生活訓練から就労移行支援事業に移行する利用者自身が、見通しを持てるようにすることで支援をシームレスに行えるよう、生活訓練スタッフを対象とした就労移行支援の視点についての勉強会を開催し、サービスの向上及び職員の支援力の向上を図った。				
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理がなされているか			
(評価の理由) ・収入について、指定管理料の他、日中活動センターにおける自立支援給付費収入と利用者の利用に伴う自己負担金収入がある。 ・支出については、当初予算を踏まえた予算執行計画に添って、概ね適正に支出している。 ・社会福祉法人会計基準に基づき適正な会計処理が行われており、法人の経理規程を遵守しているほか、税理士事務所などによる外部監査及び内部監査も定期的実施している。					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
(評価の理由) ・就労移行支援事業においては、週1回、就労支援アドバイザーを依頼しているほか、作業療法士1名を常勤で配置し、新規就労だけではなく、高次脳機能障害当事者の復職支援においても専門的なアプローチを展開した。 ・利用者満足度アンケートを通し意見、要望の把握、分析を行い、サービス向上に生かせるように検討するとともに、今年度から再開した利用者、家族を対象とした事業報告会についても、ニーズ把握の機会として生かした。 ・記録システムにより、記録管理の効率化だけでなく、職員が記録しやすく、かつ記録を参照しやすい環境を整備することで、職員間での利用者情報の共有をすすめて、引き続きチームアプローチの質の向上を図った。 ・個別支援計画の作成においては、通常の作成プロセスを踏みながら、必要に応じてリハビリテーションセンター科医師の診察を入れ、理学療法士や作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士等による専門評価も取り入れ、計画に反映している。					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
(評価の理由) ・発生した事故への対応については迅速且つ適切に行い、調整会議、所内会議等で事故、ヒヤリハットを検証し再発防止に向け職員間で周知を図った。 ・現場スタッフの育成やプログラムの見直しに注力し、ケース記録をつける際の具体的な視点を持つため、意思決定支援についての所内研修を実施し、職員のスキルアップを図った。 ・職員が利用者から社会保険制度等に関する相談を受けた際に、就労支援アドバイザーから助言をもらい、対応することを通じて専門的な知識の向上が図られた。 ・定期的にカンファレンスを開催するとともに、日にの利用者対応については各事業内で随時ミニカンファレンスを行うなど、情報の共有化を図り、支援技術の向上を図っている。 ・北部在宅支援室と合同で、月1回会議を開催し、事故報告やヒヤリ・ハット報告を行うとともに、苦情解決委員会・権利擁護委員会を同時に開催し、利用者からの意見や要望等について協議した上で、対応を行っている。 ・業務マニュアルの随時見直しを行うとともに、施設長をはじめ、中堅職員、主任研修でコンプライアンスの徹底を図り、重要性について認識するよう周知徹底を実施した。 ・記録システムの活用により、記録管理の効率化を図っている。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) ・施設・設備の保守点検や清掃・警備等については、委託にて業務実施がされており、適切な管理が行われている。 ・固定資産管理台帳・備品台帳を基に、年1回の備品確認が行われ、施設間での移動等も把握するようにしている。					

4. その他加算

分類	項目	着眼点			評価点
その他加算	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			0
	(評価の理由)				

5. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A～E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満

A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・利用者が「自分らしい暮らし方」または「自分らしい働き方」を自分で作り上げられるように支援するため、さまざまな活動を通じて「得意なこと」「苦手なこと」「好きなこと」「嫌いなこと」など、自己理解の手がかりを提供することで、適切な支援の提供を行った。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・北部リハビリテーションセンター内での連携を引き続き強化するとともに、南中北の日中活動センターとの連携も引き続き強化し、サービスの質の向上に努めること。